

新任のご挨拶

総務委員長 成田 賢



私は、大友秀夫前委員長から引継ぎ、1月付けで当協会の総務委員長を仰せ付け、5月24日に開催されました定期総会にて、再任されました。宮川理事長をはじめとする皆様のご指導とご支援、ご鞭撻を賜りながら総務委員長として協会活動を進めていく所存ですので、どうかよろしくお願ひ致します。

私の出身地は、秋田県の白神山地の麓です。この東北の地を愛し、四季に感動し、育って参りました。そのためか、この地の地質の脆弱さを克服し、社会資本の整備に役立てる仕事に大変微力ではありますが従事していることに大きな喜びを感じております。

昨今の社会情勢は、公共事業の縮減、これに伴う価格破壊競争の進展など、地質調査の重要性を担う私ども協会員にとって、大変厳しい経営環境となってまいりました。この状況は今後更に厳しくなることが予想される状況であります。

しかし、地質調査の役割は、防災や環境など国民が安心して暮らせる国土づくりになくはならないものと考えております。しかも脆弱で複雑な地質から構成される東北地方では、地質調査の役割は相当大きいものであると考えます。ですから、地質調査業を衰退させることはできないと考えております。

さて、今年の活動方針にありますように、会費の値下げ開始、委員会の統廃合が実行される等、今年は協会改革実行の初年にあたります。協会の改革は、公共事業などの転換に遅れない協会活動の推進をはかるためと理解しております。更に今年は、発注者のみならず一般の方々から安心して見られる協会とするため、倫理規程を確立して行く計画です。皆様のご意見ご提案を広く受けながら、今年度中の早い時期に提案し、ご審議いただくよう努力する所存です。

皆様が築き上げた改革のルールを踏み外すことのないよう強肝に命じ、活動を軌道に乗せていきたいと考えております。

このような転換期こそ会員皆様の親睦を深め、種々の意見交換を図る場としての協会の意義も一層重要となると考えます。特に改革実行の初年は、皆様方のご理解がもっとも重要と考えております。このため、親睦の場としての活動も積極的に展開してまいりたいと考えます。

これから皆様からのご意見ご提案を広く取り入れた総務委員会活動を展開し、協会会員の役に立つ東北地質調査業協会とすべく、総務委員各位とともに努力してまいりますので、ご理解とご支援、ご協力を賜りたくお願ひ申し上げます。

新任のご挨拶

技術委員長 中村 昌弘



本年7月17日に開催された理事会において、宮川理事長より武部前委員長の後任として技術委員長を仰せつかりました。

これまで研修委員として協会活動のお手伝いをさせていただいておりましたが、今回、突然の指名で大変な戸惑いを感じております。これまであった研修委員会は平成13年度から技術委員会に統合し、企画・研修・検定・講習の4部会から構成される新体制に移行しています。当委員会の活動の重要性と責任の大きさを認識すると重圧でつぶされそうです。しかし、技術委員会のチームワークの良さ、私を支えてくださるスタッフがベテラン揃いである事に甘え、非力ながら社会に貢献できるチャンスと考え、やってみようという気持ちになりました。

ちょっとここで自己紹介をします。私は北上山地の最高峰早地峰山の麓で生まれた山育ちです。それが海にあこがれ海洋学部へと進みました。大海原で調査船の横を数10頭ものイルカの群れが併走したり飛び跳ねる様は、海の魅力を知るにあまりあります。海は広大ですべての生命の源であり何でも許容する力にみなぎった世界です。また、反面、いつでも死と向き合っている世界でもあります。私は残念ながら足下が安定しない船上での船酔いに耐えられなくて陸上の調査を行うことになり現在に至っております。船酔い状態のふらふら船出とならないよう気を引き締めたいと思いますので、どうかご指導のほどよろしく御願ひ致します。

さて、新技術委員会の役割・使命は『協会の社会的知名度の向上と技術の研修』『資格試験の実施』『会員への技術サービスの提供と若手技術者の育成』が大きな柱と考えられます。

世の中は、社会システムの激変とグローバル化、行政改革に伴う建設投資の減少と入札制度の改革、情報社会を反映した技術革新に伴う技術的要請の高度化や、電子納品システムの導入と急激に変化しております。当協会としても、福島県を始めとする各県への技術講習会の開催、今後改革される地質調査技士資格試験への対応、電子納品を含めた建設CALS/ECの講習活動、公害・環境問題の顕在化や安全・危機管理への市民意識の高まりに対応するための技術力の向上と若手技術者の育成など多様な問題がクローズアップされています。地質調査業という一つのサービス業が時代の流れと共に変化し、協会活動も時代の要請に応えながら変化しなければなりません。

このように地質調査業に対する要望が変化する中で、地質調査というサービス業としての本質は何であるのかを知らしめるため、これまでと同様、協会が技術を通して社会にうまくアピールしていかなければならないのだろうと思います。

協会を構成する企業とそこに働く職員皆様の社会的地位の向上とさらなる発展に向けて、どのような活動を行うべきかについて、微力ではありますが勉強しながら少しずつ検討したいと考えております。どうか皆様のご指導、ご支援を賜りたくよろしく御願ひ申し上げます。